

## 信頼力

2021.4.22

「人間力は信頼力」ある方からいただいた葉書に書かれてあった言葉である。ある方とは、私の中学時代の恩師であるS先生である。先日、野田中学校着任の挨拶状を送らせていただいた。すると、すぐにショートメールが届いた。続いて我が家の郵便受けには、見慣れた手書きの葉書が入っていた。

いつもの手書きの文面であった。大きく「人間力は信頼力」とある。そして、「リーダーとして大切なことは『信頼力』のような気がします」と添えられていた。

「あなたは、なぜ教員になったのですか」と聞かれたら、私はS先生の影響があったことを話すようにしている。その敬愛するS先生のことと残念なことが二つある。一つは、中学時代に社会科は担当していただいたが、学級担任にはなしていただけなかったことである。もう一つは、福島市の教員になったが、S先生の学校では働けなかったことである。

出会いは必然であることを考えると、私に何か足りなかったのだろうと思う。それでも、直接的、間接的に今でもS先生から多くのことを学ばせていただいている。

四月は「出会い」の季節。子どもたちは、間違いなく「出会い」に期待しています。「期待と不安」よりも、「不安」のほうが大きい。でも「教師」のひと言が、生徒をワクワクの世界に導くことが出来るのです。

最近のS先生の言葉である。4月6日以来、数えてみると6回も生徒に向けて話す機会があった。そのうち3回は4月6日だった。そこでは、生徒に一つのことしか伝えていない。それが「思いやり」である。どれほど、生徒の心に響いたかはわからない。これからも繰り返し言い続けることも必要だろう。じわりじわりと効果が表れてくるのかもしれない。大切なことは、生徒に伝える言葉である。言葉を選ばなくてはならない。言葉を吟味しなくてはいけない。

今回、S先生から「信頼力」という言葉をプレゼントされたと思っている。信頼とは、その人を評価するにあたり、その人自身の人柄や考え方、立ち振る舞いなどに重きを置いた評価である。信用という言葉もある。信用は、これまでの行為や業績に対する評価から生まれるものである。その人自身に対する評価というよりも、その人の実績に重きを置いた評価である。

「信頼力」となると、人柄や考え方、人間性の問題である。信頼は、気持ちと気持ちのつながりである。したがって、双方向である。生徒や保護者、地域の方々、先生方から信頼を得るのは容易なことではないと考えている。一つ一つのことを地道にやっていくしかない。そこには思いが必要である。

S先生からいただいた「信頼力」という言葉は、私への宿題だと理解した。困難かつ重いものだが、今の私には必要なものである。